

2025年3月期第2四半期（中間期）決算補足資料

株式会社 きもと

2024年11月29日

※2024年11月29日開催の2025年3月期第2四半期（中間期）決算説明会では、
本資料を抜粋してご報告いたします。

1 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算について

2 2025年3月期 通期業績予想

3 フィルム事業

4 デジタルツイン事業

5 トピックス



2025年3月期 第2四半期（中間期）実績 前年比

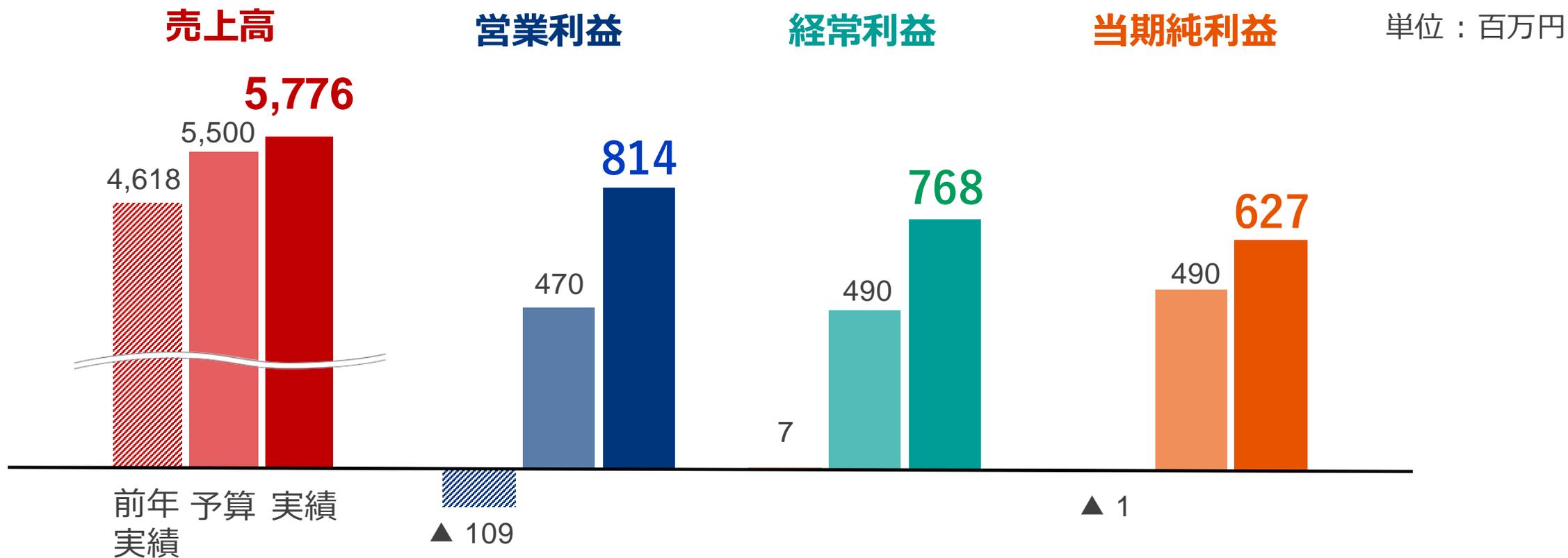
■売上高は概ね予想通りでしたが、利益率の高い高付加価値製品（遮光、粘着フィルム等）が一部前倒し受注もあり、想定していた以上に販売が伸びたことにより利益が大幅に予想を上回る結果となりました。

単位：百万円

	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期 予想	2025年3月期 中間期	増減	増減率(%)
売上高	4,618	5,500	5,776	1,157	25.1
売上総利益	1,332	-	2,332	1,000	75.1
販売管理費	1,441	-	1,517	75	5.3
営業利益	△109	470	814	924	-
経常利益	7	490	768	761	10,294.2
税引前利益	4	-	795	791	16,224.1
中間純利益	△1	490	627	628	-

損益計算書 [連結]

- 売上高は概ね予想通りでしたが、**利益率の高い高付加価値製品（遮光、粘着フィルム等）が一部前倒し受注**もあり、想定していた以上に販売が伸びたことにより利益が大幅に予想を上回る結果となりました。

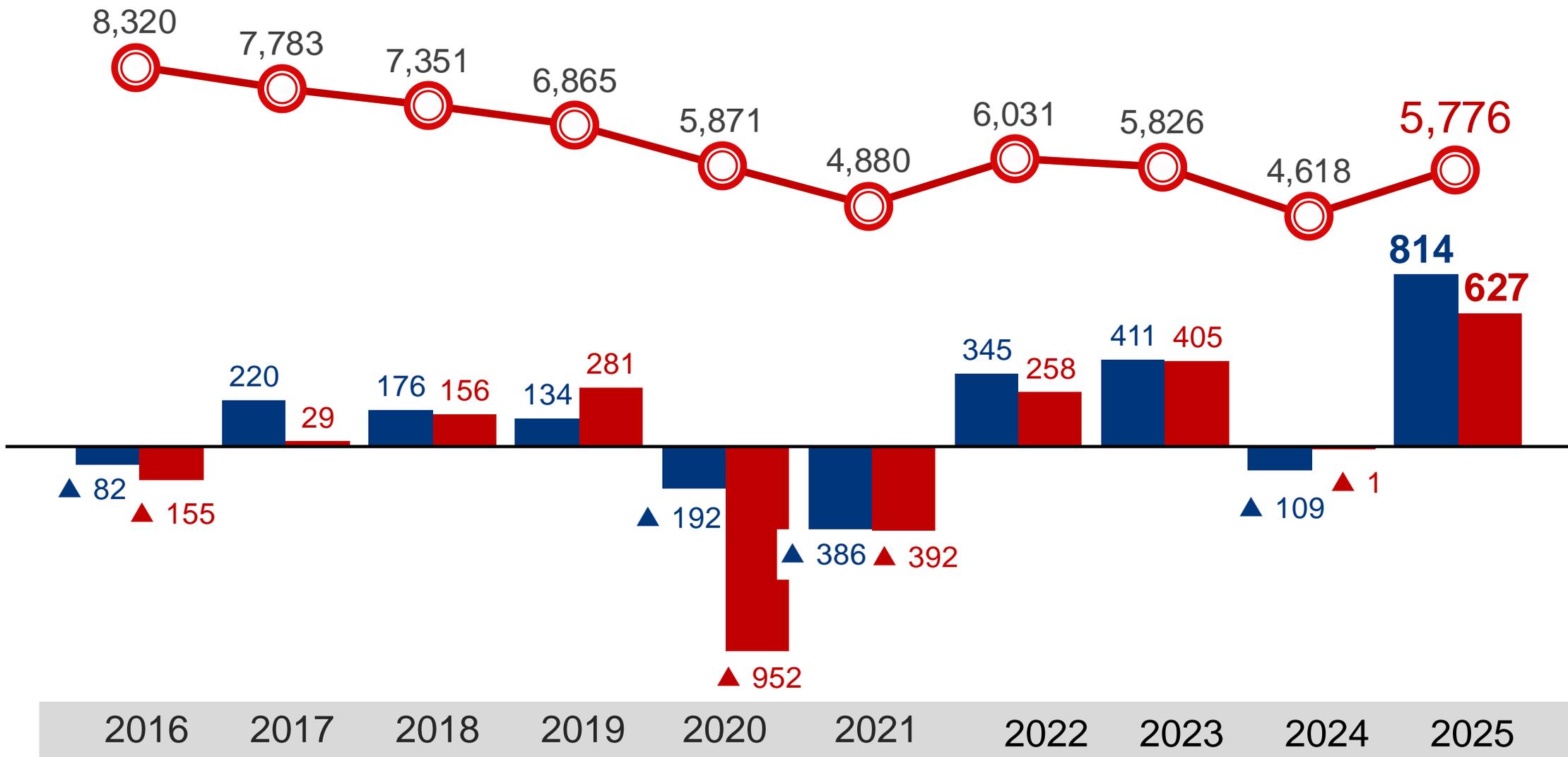


売上高・営業利益・純利益 [連結]

2016年3月期～2025年3月期 第2四半期比較

単位：百万円

○ 売上高
■ 営業利益
■ 当期純利益

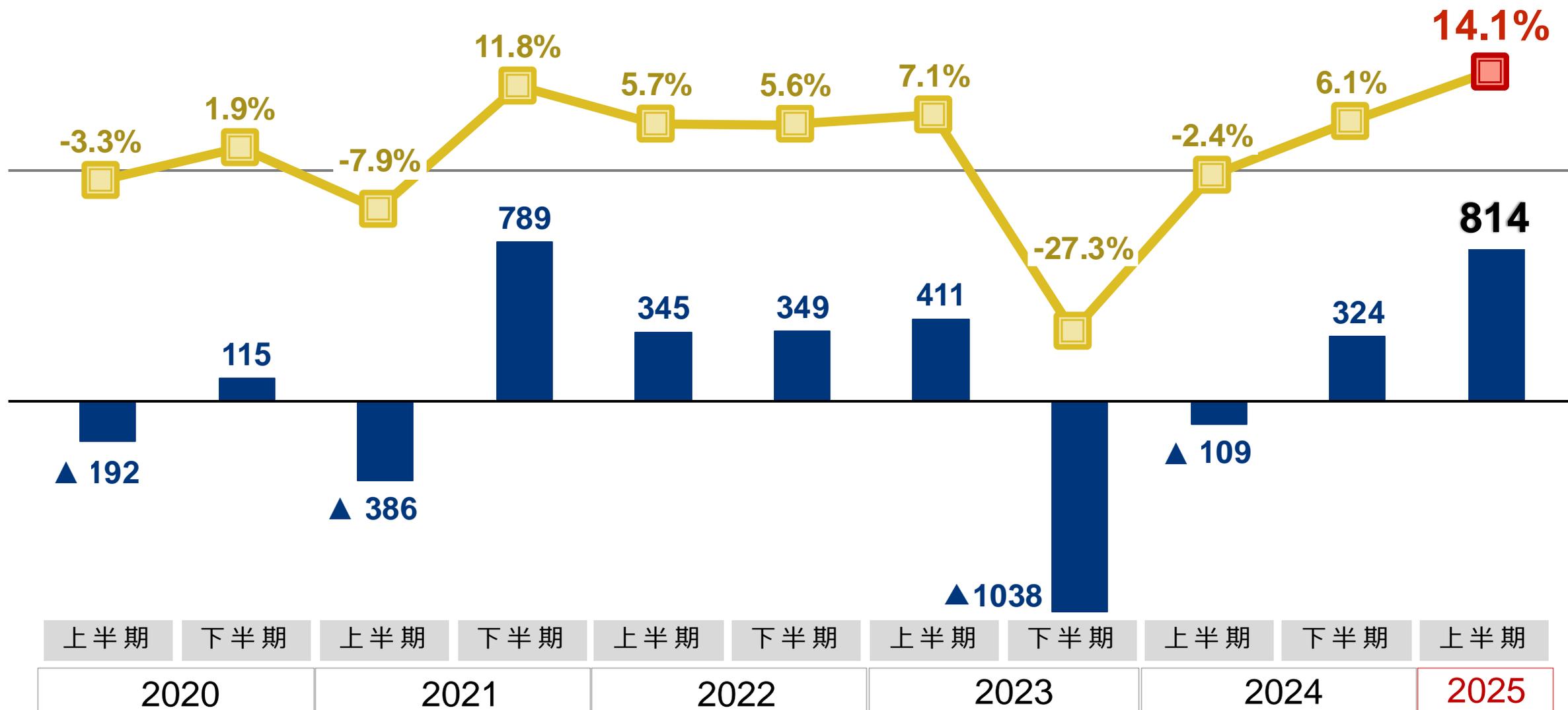


営業利益・営業利益率 [連結]

2020年3月期～2025年3月期
半期毎

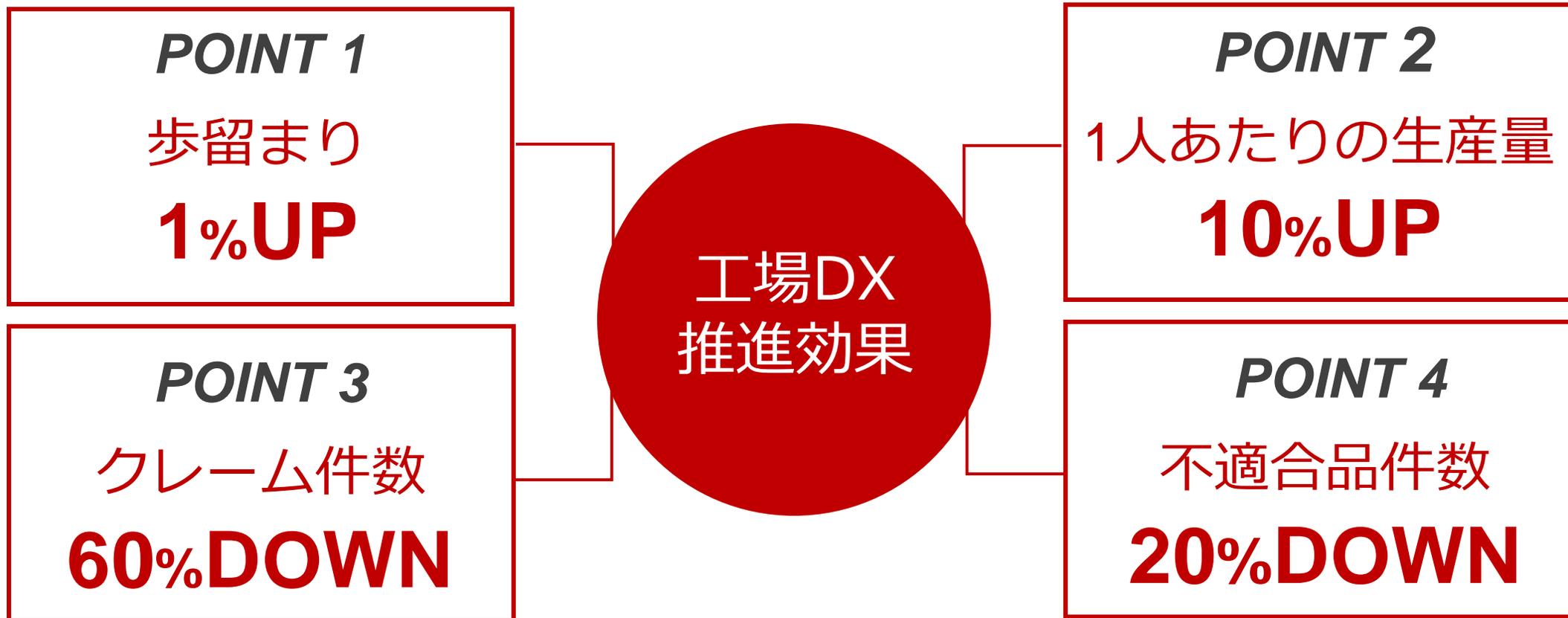
単位：百万円

■ 営業利益
■ 営業利益率



原価低減への取り組み

- **工場のDX推進**により可視化と効率化を実現し、無駄削減と業務精度が向上しました。**不具合撲滅に向けた横展開を通じて課題を改善**することで**原価低減を実現**しました。



KIMOTOグループ業績

単位：百万円

		KMT 	KTI 	KAG 	SKI 
売上高	2025年3月期 中間期	5,284	486	398	54
	2024年3月期 中間期	4,307	284	298	76
営業利益	2025年3月期 中間期	829	△24	37	△30
	2024年3月期 中間期	4	△134	27	△9

KIMOTOグループトピックス

KMT



自動車向け拡散フィルム、粘着フィルム、通信機器向け遮光フィルム、粘着フィルムが堅調に推移しました。また、**高付加価値製品の販売強化により高収益製品の販売が増加**し利益に貢献しました。

KTI



自動車向け拡散フィルム、ディスプレイ保護向けハードコートフィルムの販売が堅調により売上に貢献しました。**通期では収支の改善が見込まれます。**

KAG



スイスフラン高の影響によりユーロ圏での販売においては利益を圧迫したものの、**輸送機器向け案件が引き続き好調**となり、加えて**家電、照明向け拡散フィルムの需要が増加**し、売上、利益ともに順調に推移しました。更に輸送機器向けの新規案件獲得が見込まれます。

SKI



BIM/CIM関連の大型案件が少なく売上、利益ともに低調となりましたが、受注残高は前年比で増加しており、**第3四半期中に黒字転換が見込まれます。**

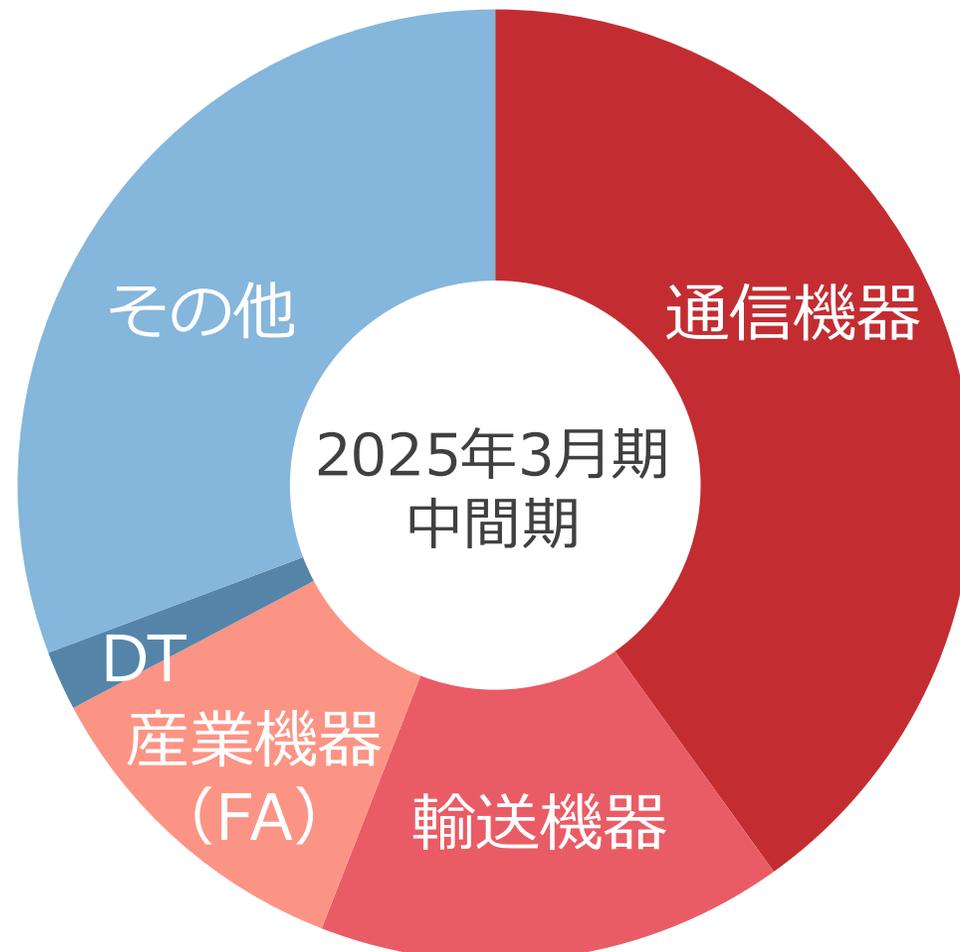
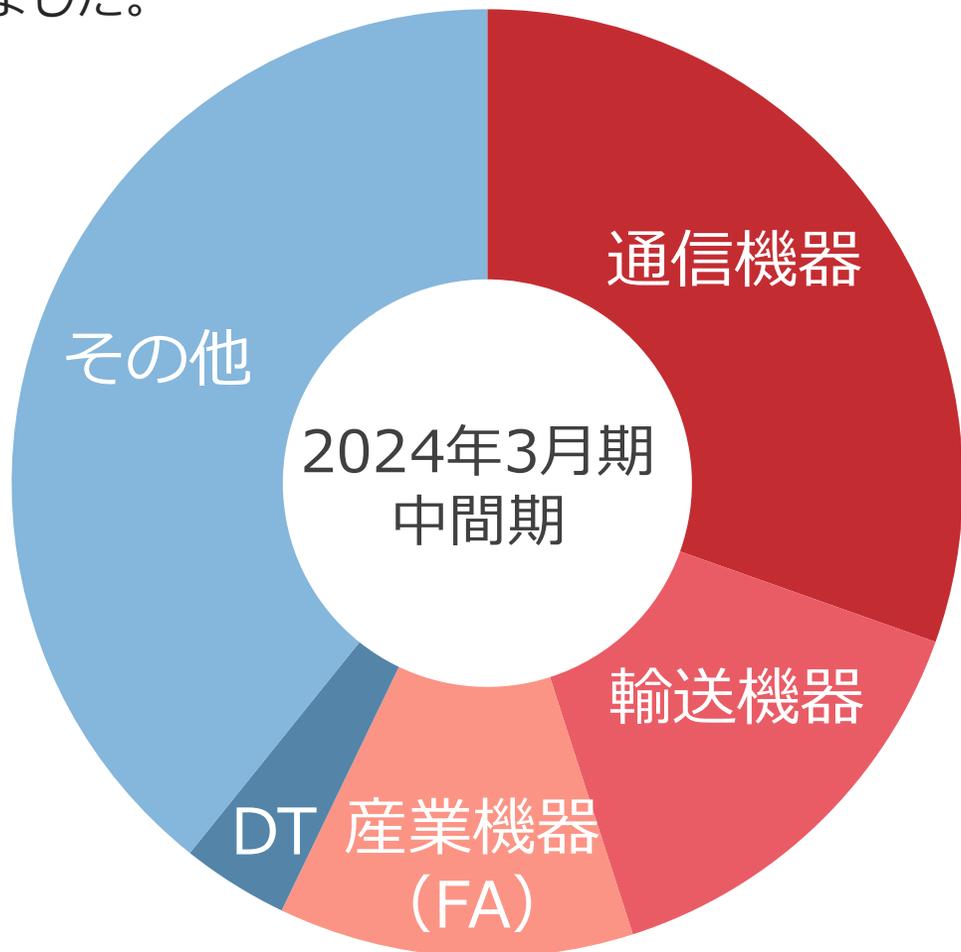
【日本】売上構成

単位：百万円

	2024年3月期 中間期	構成比	2025年3月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
フィルム事業	4,150	96.4%	5,177	98.0%	1,026	24.7%
通信機器	1,311	30.4%	2,113	40.0%	802	61.2%
輸送機器	629	14.6%	842	16.0%	213	33.9%
産業機器	519	12.1%	598	11.3%	78	15.2%
その他	1,690	39.2%	1,622	30.7%	△68	△4.0%
デジタルツイン事業	156	3.6%	106	2.0%	△49	△31.7%
3D	73	1.7%	31	0.6%	△42	△57.4%
2D	48	1.1%	38	0.7%	△10	△21.4%
その他	34	0.8%	37	0.7%	2	7.8%

【日本】売上構成

- 当中間期において、**通信機器向け製品が予想以上に伸びた**ことで売上のシェアを大きく占めることとなりました。



【アメリカ】 売上構成

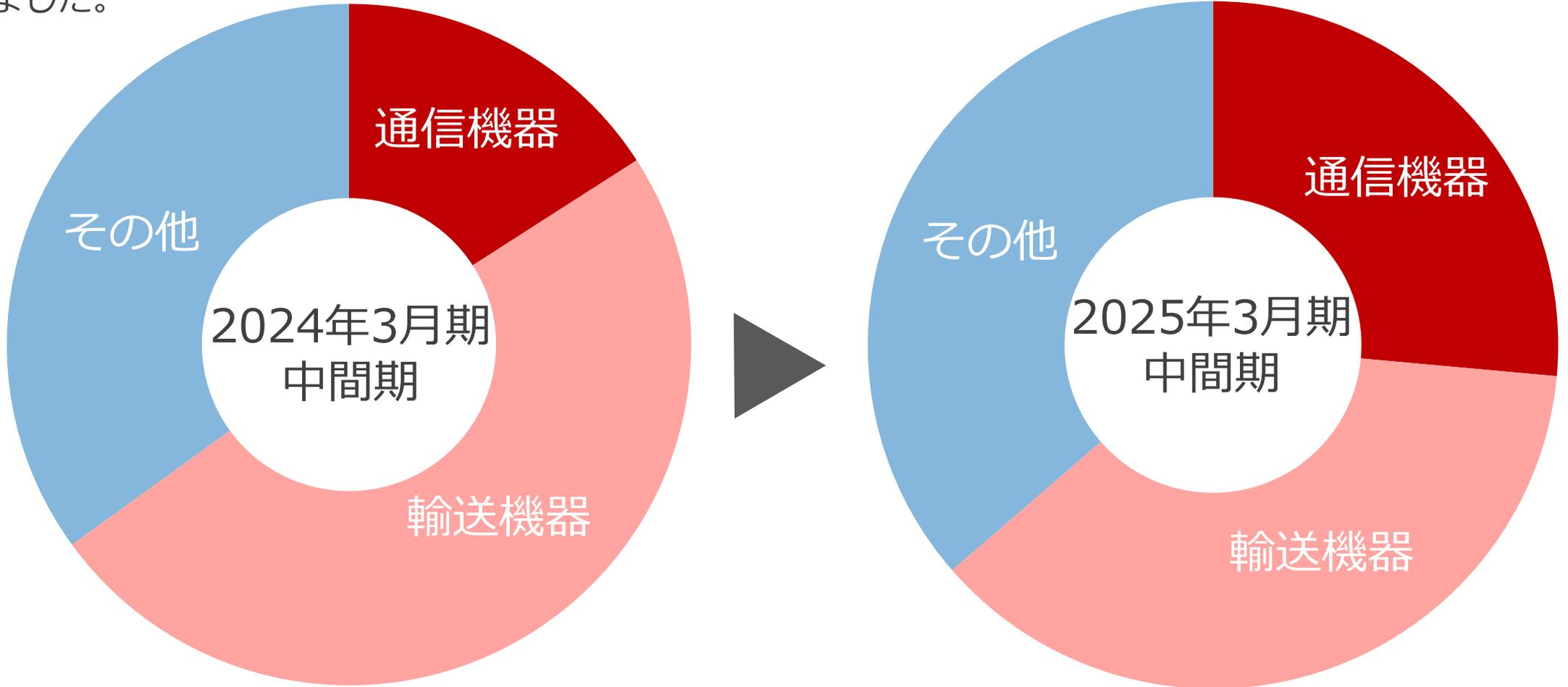
単位：百万円

	2024年3月期 中間期	構成比	2025年3月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
フィルム事業	284	100.0%	486	100.0%	201	70.9%
通信機器	45	16.1%	128	26.5%	83	181.5%
輸送機器	139	49.1%	180	37.1%	40	29.2%
その他	99	34.8%	176	36.4%	77	78.5%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【アメリカ】 売上構成

- 自動車向け拡散フィルム、ディスプレイ保護向けハードコートフィルムの販売が堅調により売上に貢献しました。



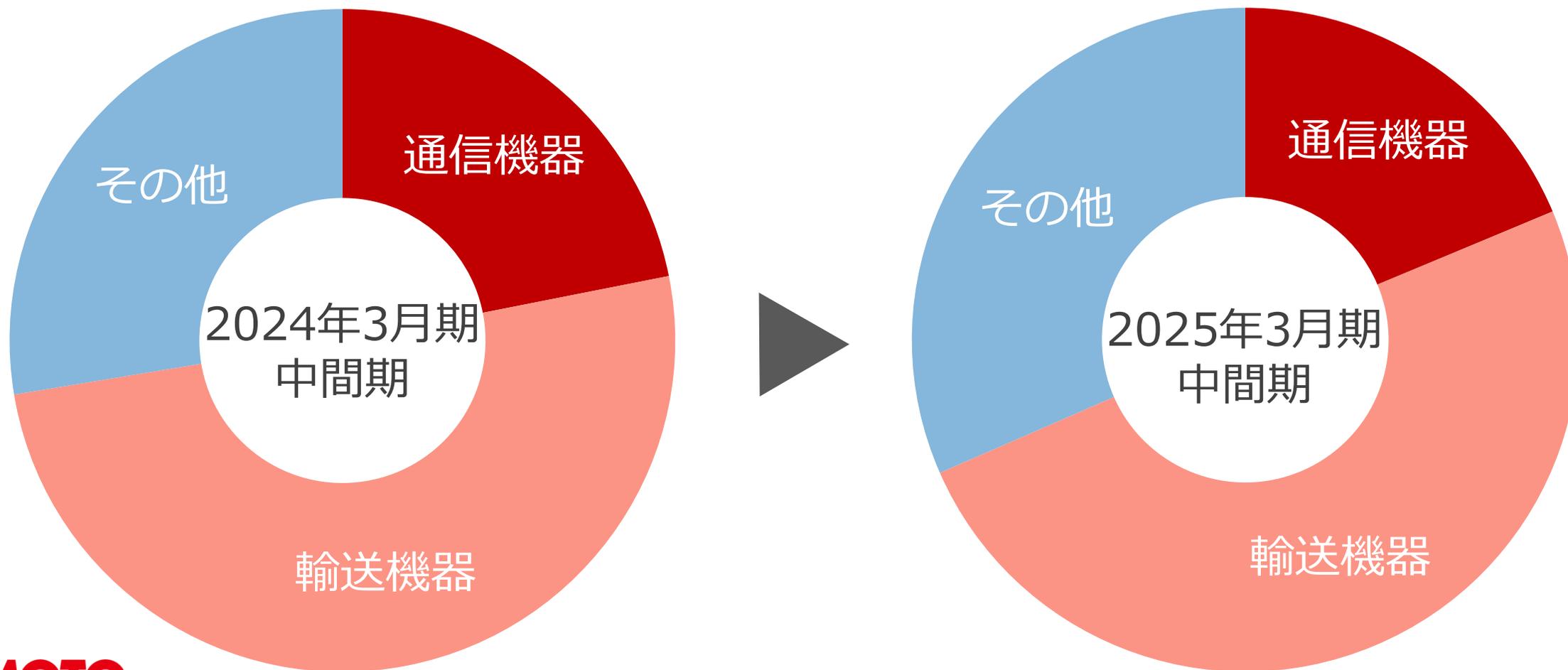
【スイス】 売上構成

単位：百万円

	2024年3月期 中間期	構成比	2025年3月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
フィルム事業	298	100.0%	398	100.0%	99	33.5%
通信機器	65	22.1%	74	18.8%	8	13.6%
輸送機器	150	50.4%	197	49.6%	47	31.5%
その他	82	27.6%	125	31.6%	43	53.0%

【スイス】 売上構成

- スイスフラン高の影響によりユーロ圏での販売においては利益を圧迫したものの、輸送機器向け案件が引き続き好調となり、加えて家電、照明向け拡散フィルムの需要が増加し、売上、利益ともに順調に推移しました。



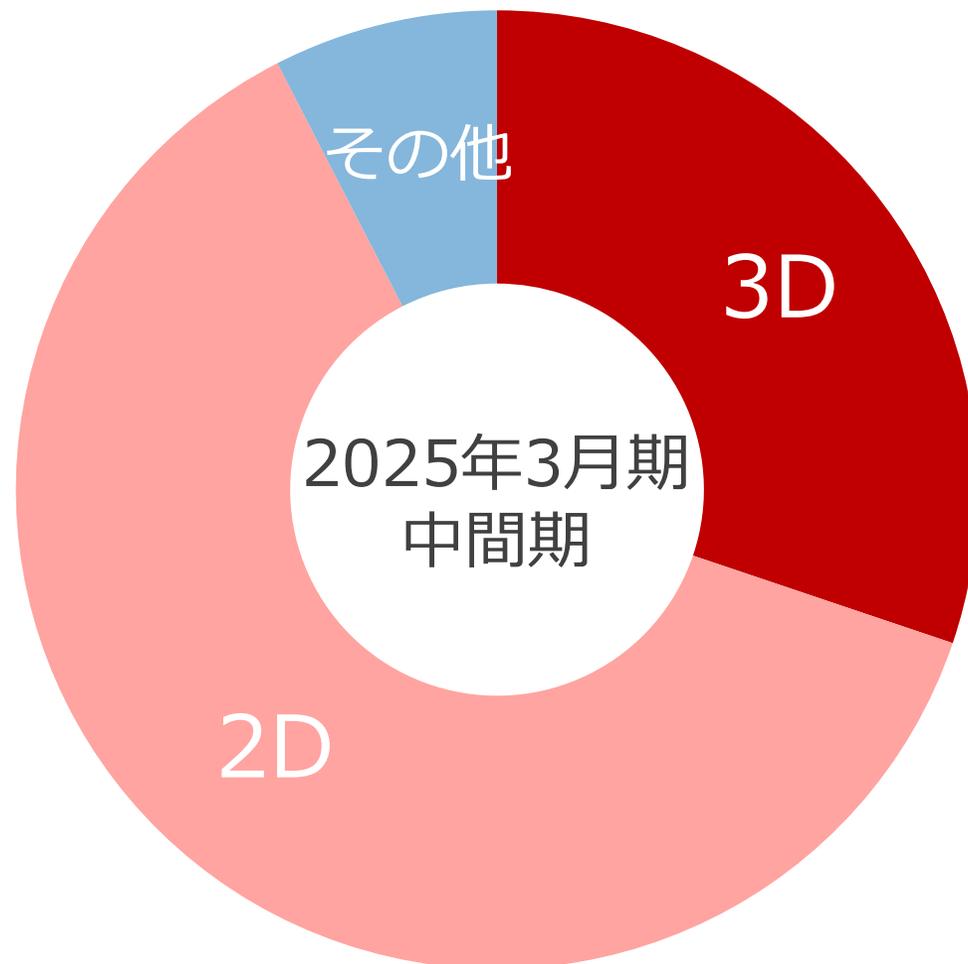
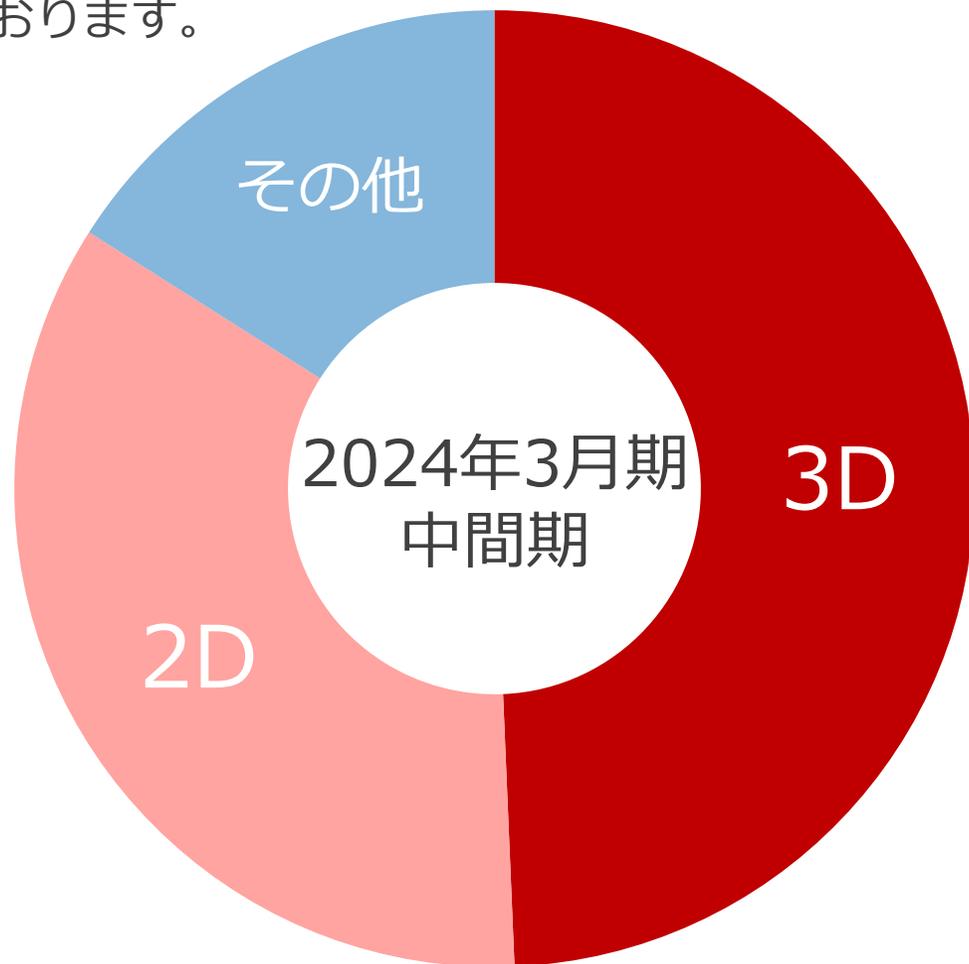
【中国】 売上構成

単位：百万円

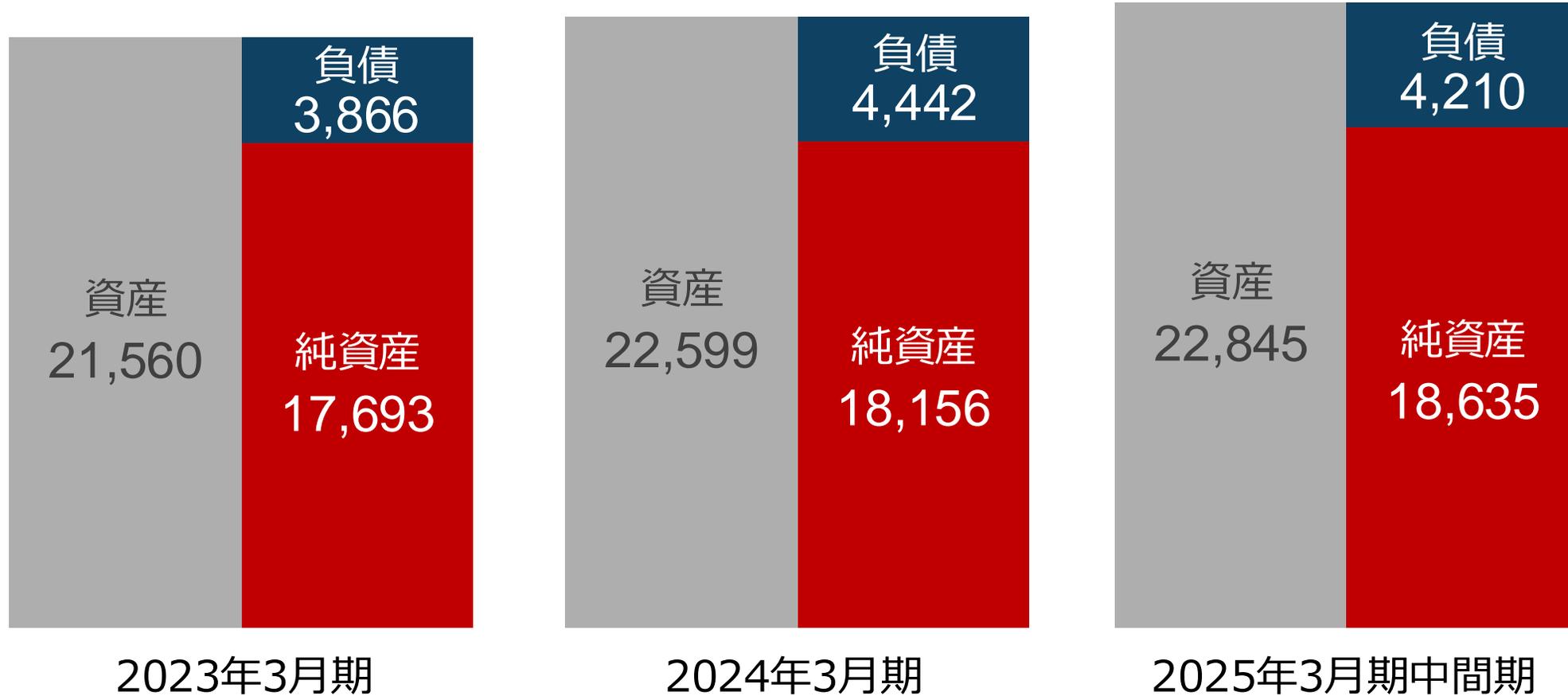
	2024年3月期 中間期	構成比	2025年3月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
デジタルツイン事業	76	100%	54	100%	△22	△29.3%
3D	37	48.9%	16	29.6%	△21	△57.2%
2D	26	34.3%	33	61.5%	6	26.5%
その他	12	16.7%	4	8.9%	△7	△62.2%

【中国】 売上構成

- BIM/CIM関連の大型案件が少なく売上、利益ともに低調となりましたが、受注残高は前年比で増加しております。



2025年3月期第2四半期（中間期） 貸借対照表 [連結]



単位：百万円

2025年3月期第2四半期（中間期） 貸借対照表 [連結] 主な変動要因

単位：百万円

資産	対前期末比	負債	対前期末比
長期預金	246	買掛金	△232
320		△255	
受取手形及び売掛金		電子記録債務	
193		△65	
現金及び預金		純資産	対前期末比
△231		478	
		利益剰余金	
		488	
		為替換算調整勘定	
		△20	

1 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算について

2 2025年3月期 通期業績予想

3 フィルム事業

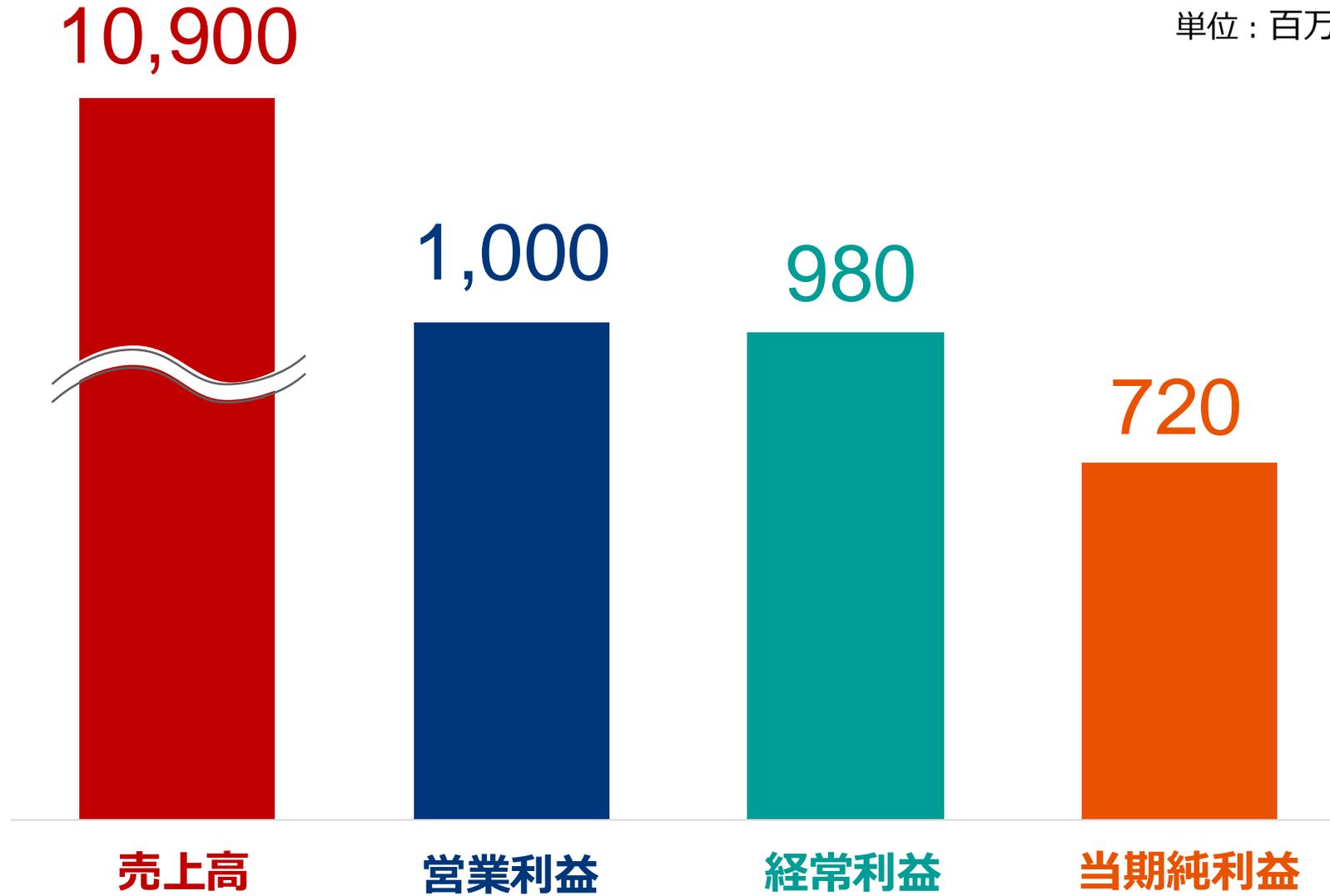
4 デジタルツイン事業

5 トピックス



通期業績予想 [連結]

単位：百万円



- 1 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算について
- 2 2025年3月期 通期業績予想
- 3 フィルム事業**
- 4 デジタルツイン事業
- 5 トピックス





通信機器・輸送機器が貢献



フィルム事業

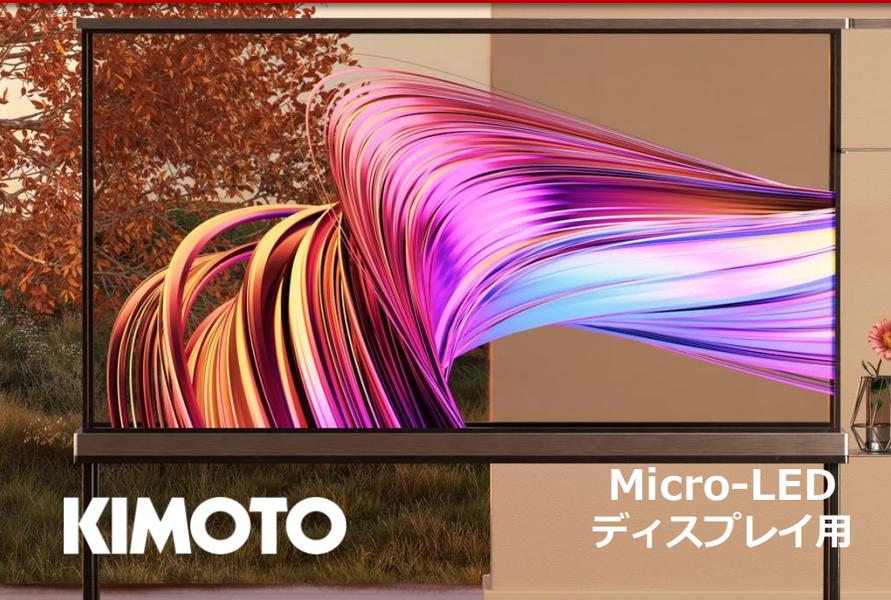


バッテリー用



半導体工程用

バッテリー用・半導体工程用が堅調に推移 今後期待される用途



Micro-LED
ディスプレイ用

KIMOTO



EVステーション用
耐候性材料



高機能液販売

高機能材料 展示会出展情報



デトロイト

2024年9月

SID Vehicle Displays and
Interfaces Symposium 2024

自動車用内装部材用フィルム



深圳

2024年9月

中国国際

オプトエレクトロニクス博覧会

黒色遮光フィルム/高機能塗料



上海

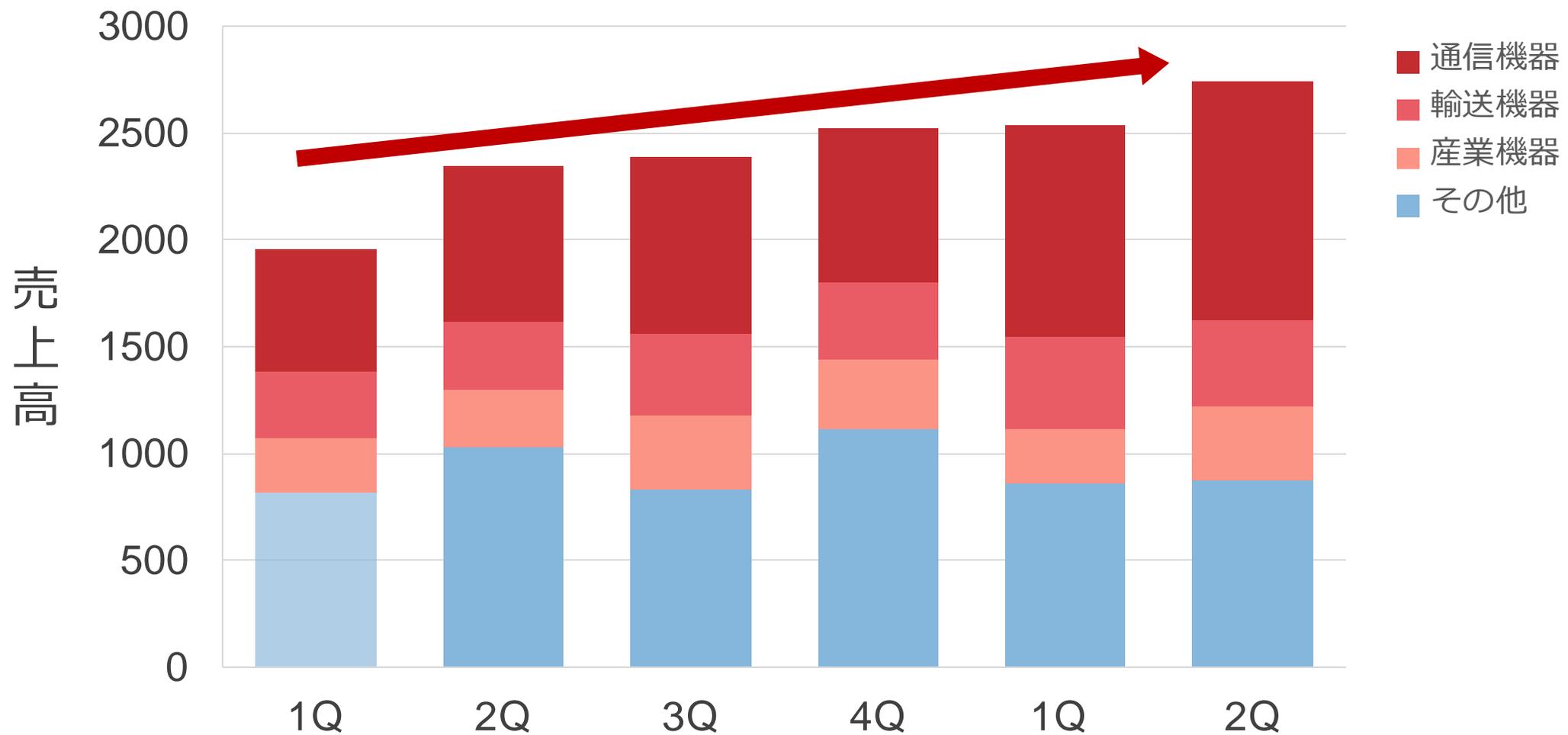
2024年8月

上海国際自動車内外装展示会

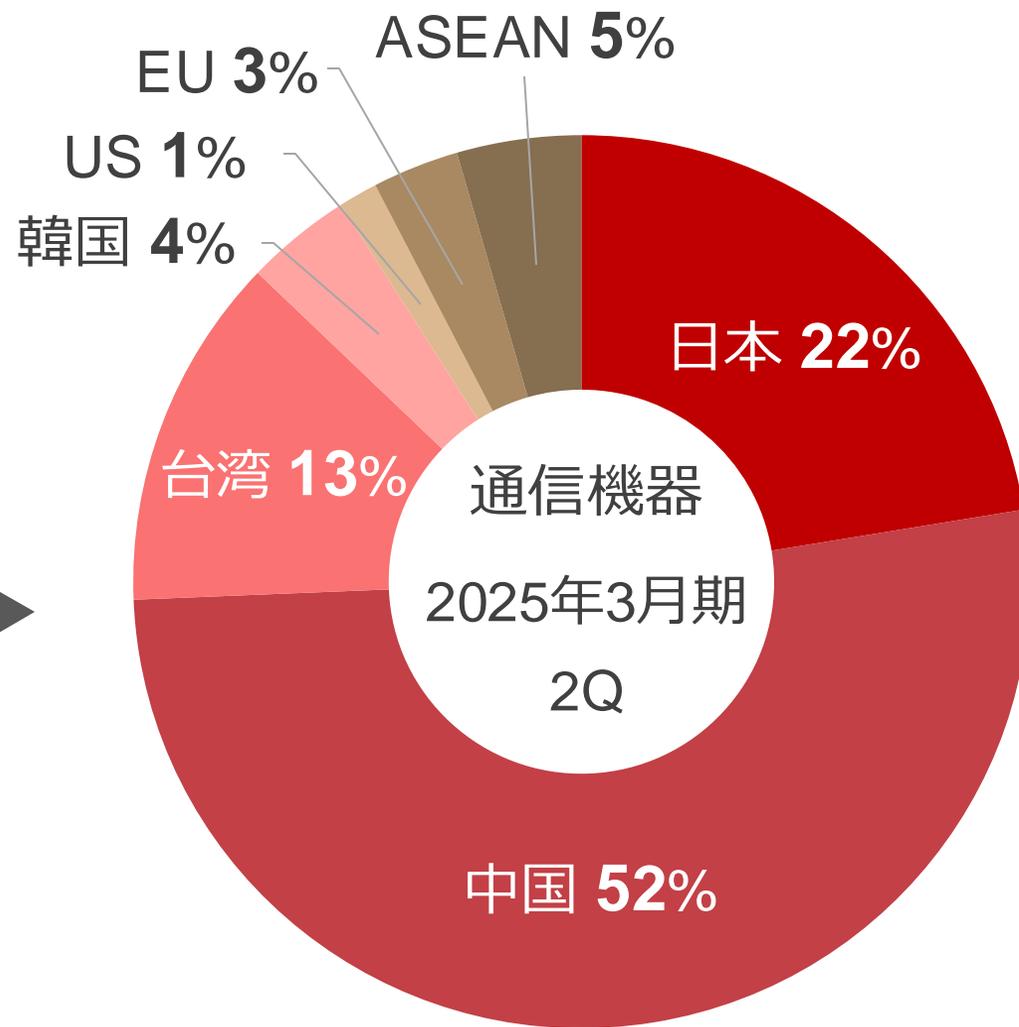
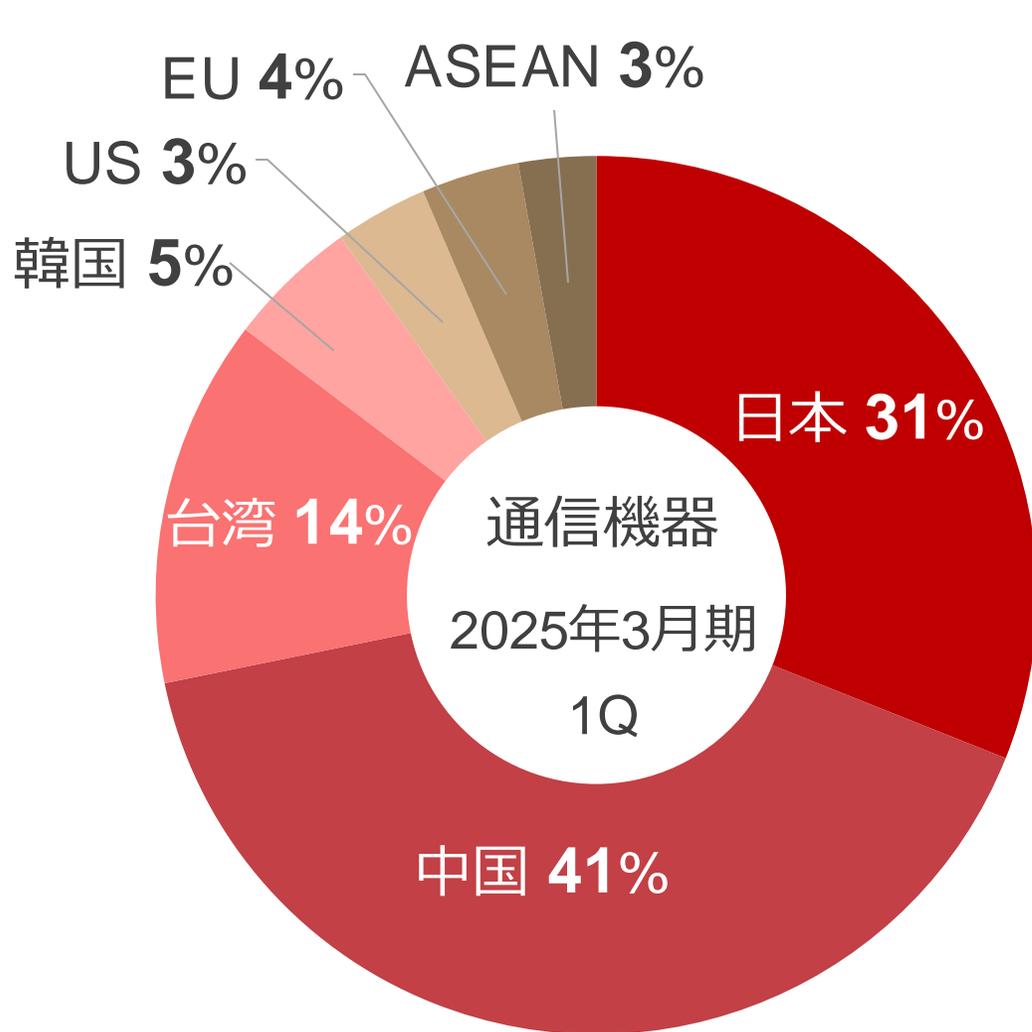
車載用機能性フィルム

【日本】売上推移（四半期）

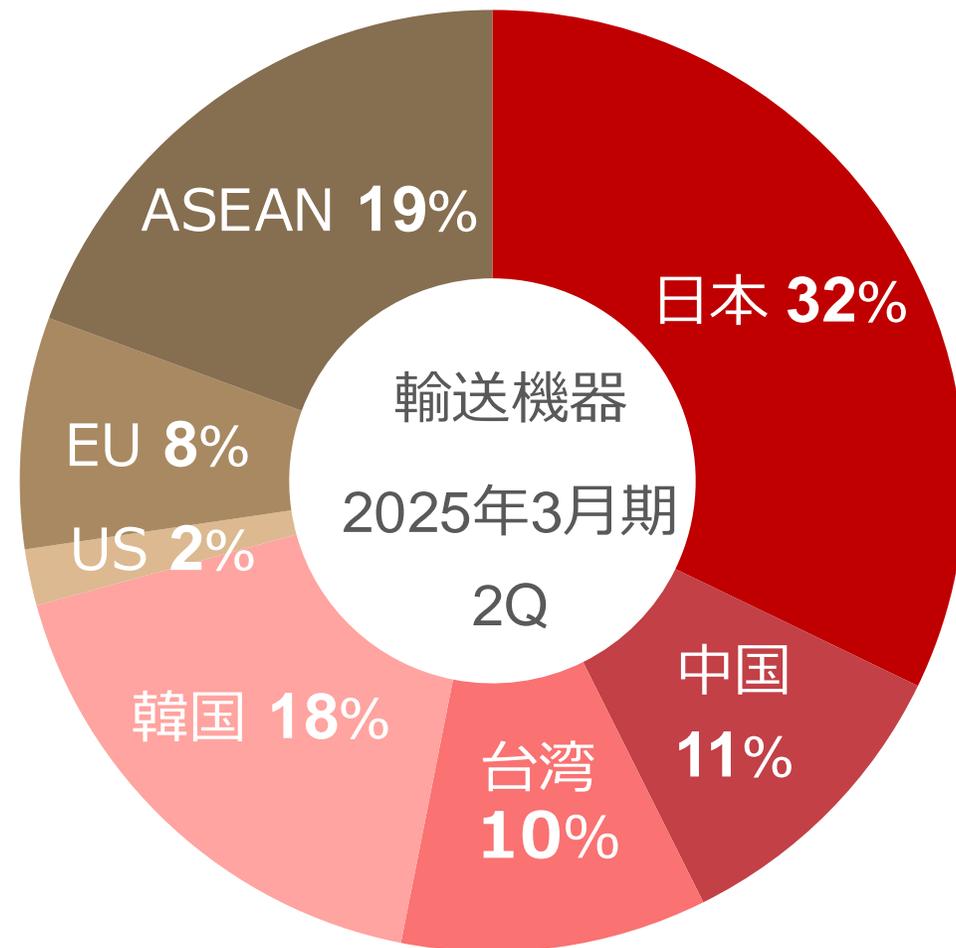
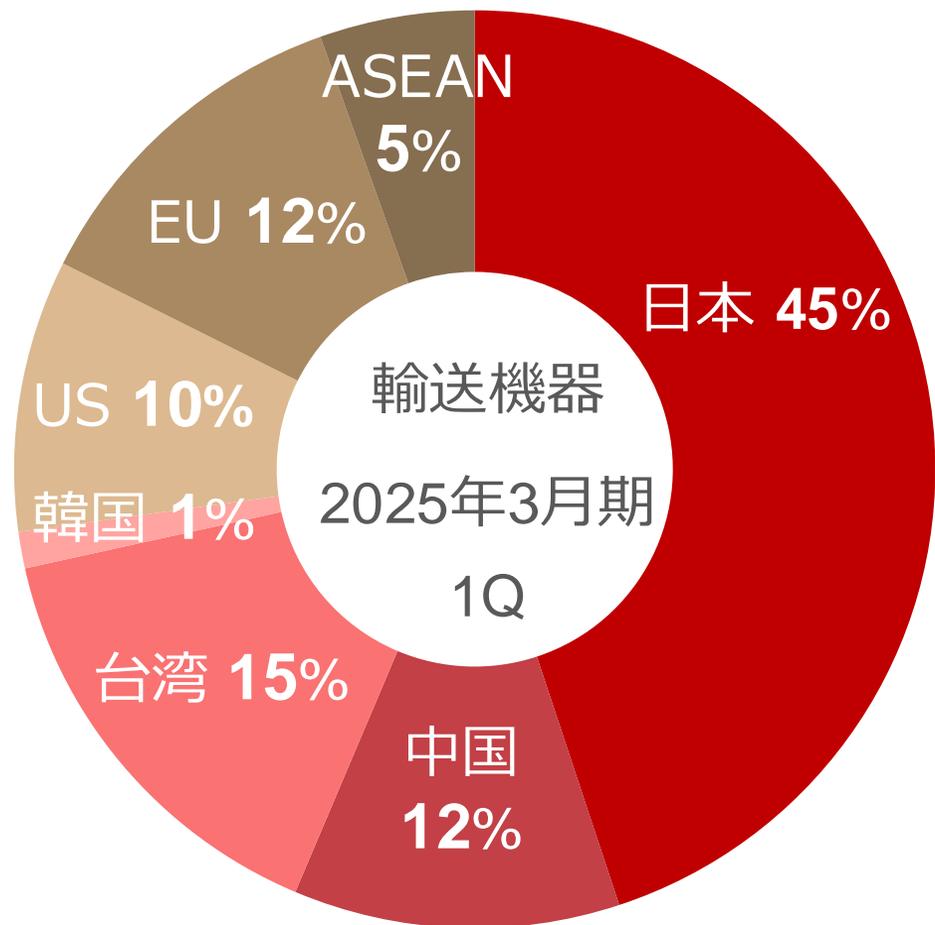
単位：百万円



【日本】通信機器 エリア別 主要製品 売上構成※



【日本】 輸送機器 エリア別 主要製品 売上構成※



製品化を飛躍的に伸ばす

- 開発を分業することにより、1つの案件を複数人の専門担当が同時進行し**製品化納期が短縮され、実験量が増えアウトプットの増加**に繋がります。

要件定義

設計

設計の
分業化

マテリアル

実験

設計補助

タスク管理

アウトプット
4倍

FY2025
アウトプット
2倍予想

製品化納期
3割短縮

実験量
7割増加

※前事業年度比

研究開発：設計分業のしくみ

FY2023以前	研究開発					
FY2024	設計					実験
FY2025	要件定義	設計	設計補助	タスク管理	マテリアル	実験



※前事業年度比

フィルム開発用試験機移設完了

- **場所にとらわれない効率的な開発体制**へ向けて、前事業年度から開発関連の設備移設を進めています。移設完了後に、主力生産の拠点である**三重工場に機能を集約した新たなセンター**を検討しています。



- 1 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算について
- 2 2025年3月期 通期業績予想
- 3 フィルム事業
- 4 デジタルツイン事業**
- 5 トピックス



KIMOTOの3事業



デジタルツイン事業部にコンサルティングプロジェクトを集約

- **製造業DXと働き方改革をトータルでサービスできる体制**にするため組織を統合し、**デジタルツイン事業部にコンサルティングプロジェクトを集約**させ、事業拡大を目指します。



旧体制



新体制 (2024年10月1日より)

デジタルツイン事業部のミッション

建設業・製造業のDXに貢献する

3D

点群データ
3Dモデル
360度写真

2D

各種図面
平面図/断面図
属性データ

ソフトウェア

ソフトウェア開発
システム構築
アプリ開発

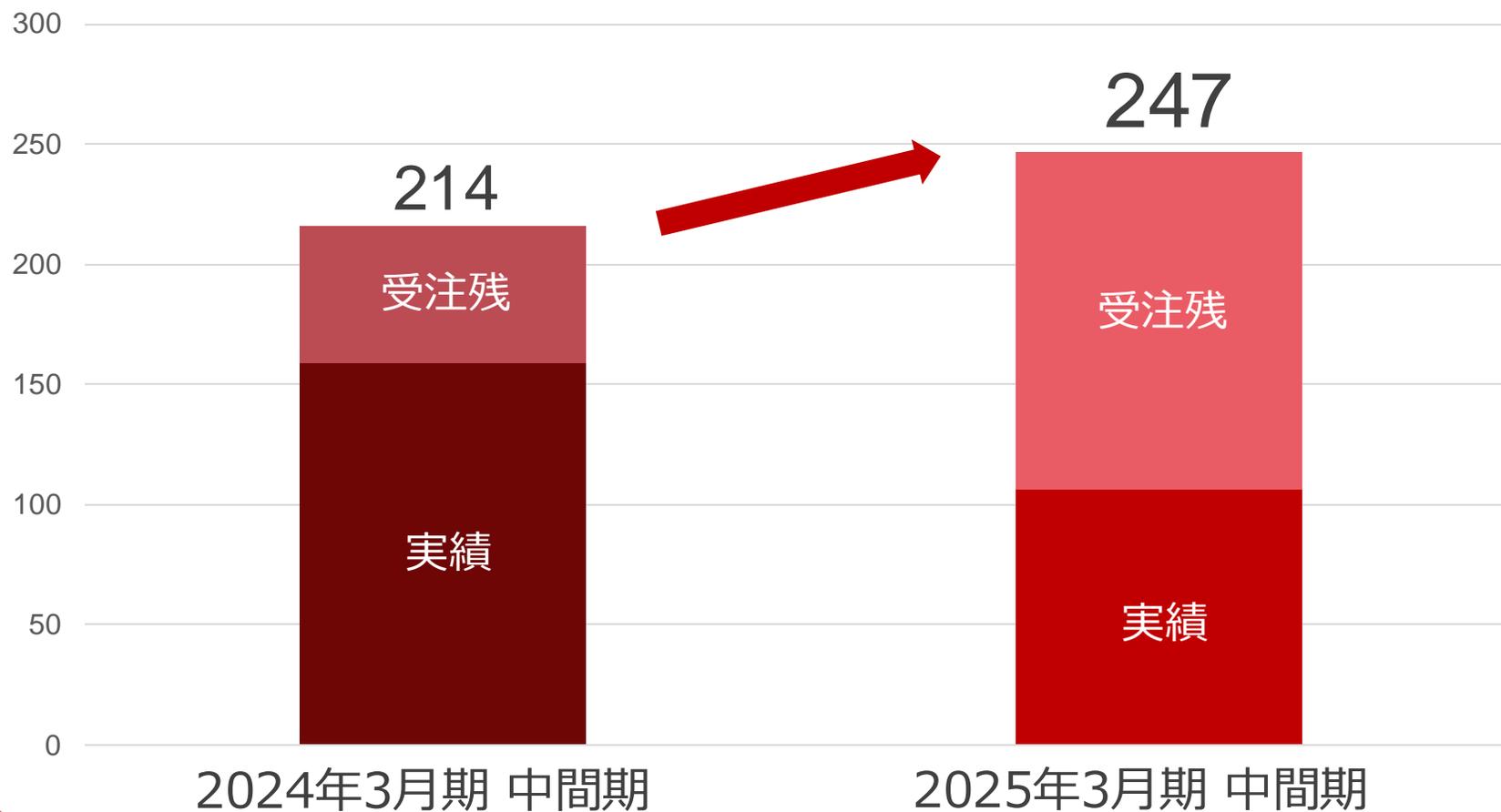
コンサルティング

働き方改革
決算早期化
製造業DX

【日本】 デジタルツイン事業売上(見込み)

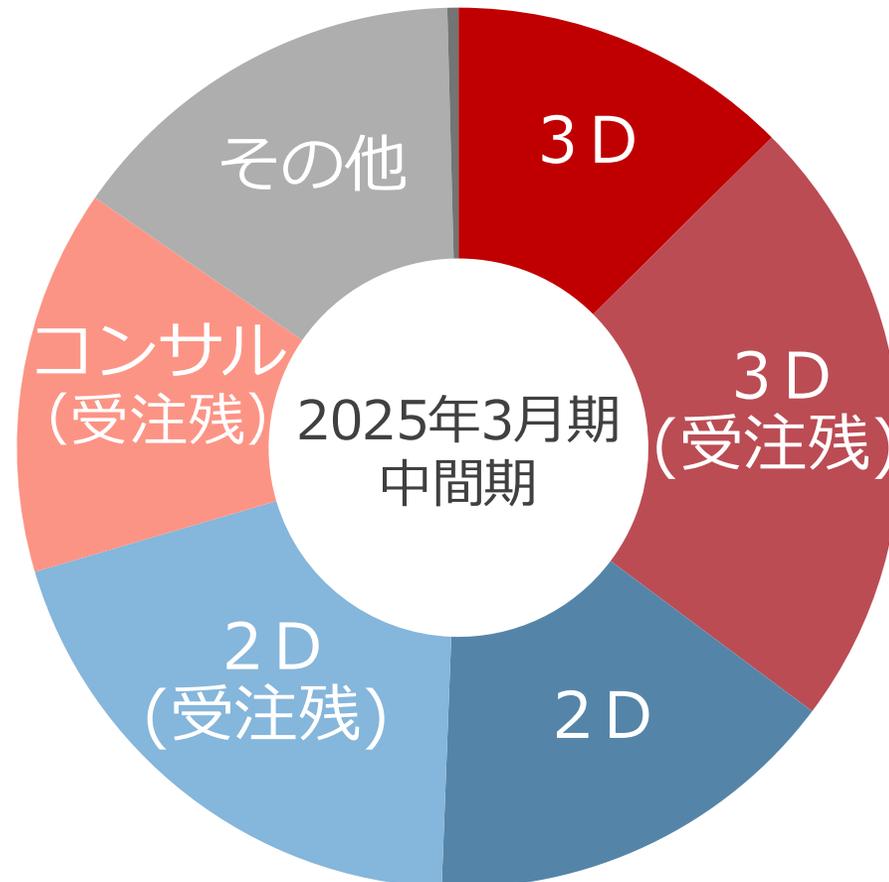
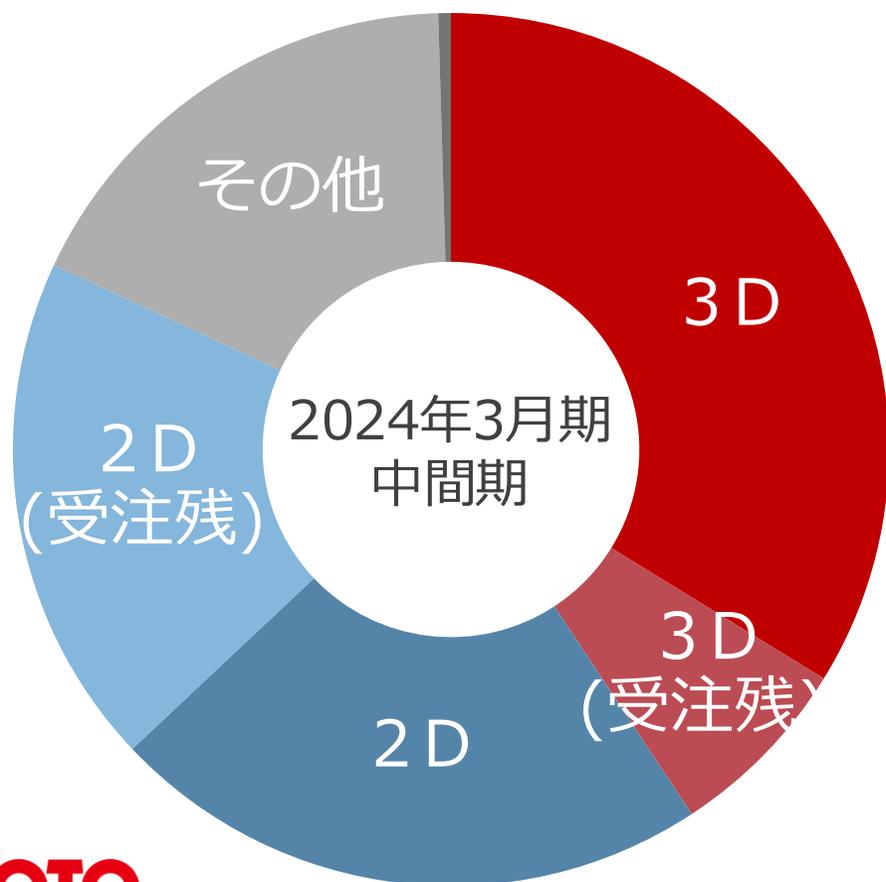
- 3D関連において、3Dモデル作成作業、プログラム開発、LiDARの案件が前年と比べ減少しているものの、**受注残を含めると前期比微増**となっています。

単位：百万円



【日本】 デジタルツイン事業売上構成（見込み）

- 3Dモデル関連の案件が前年と比べ減少しているものの、新たに**コンサルティングを受注し、受注残を含めると前期比微増**となっています。



建コン・ゼネコン向け説明会

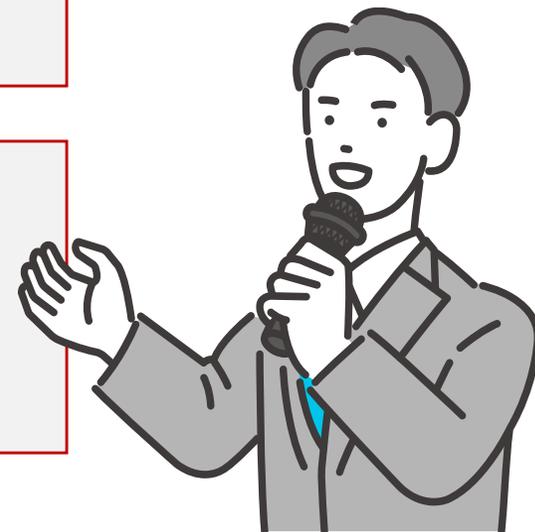
- 建設コンサルタント協会、日本建設業連合会の**加盟企業向け**に、KIMOTOが手掛ける**点群データを活用した数値図化、電線共同溝CIM**などの**説明会を開催**。

一般社団法人
建設コンサルタント協会

説明会 **4回** 開催
33社 様参加

一般社団法人
日本建設業連合会

説明会 **1回** 開催
6社 様参加

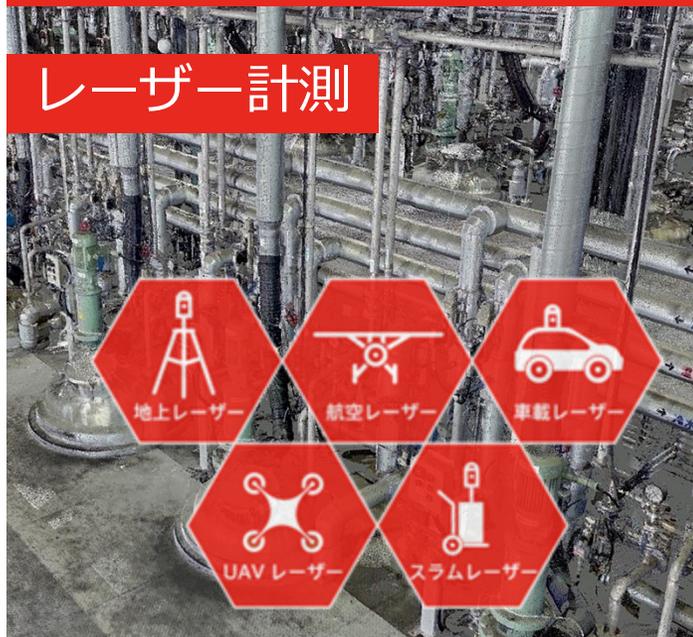


製造業DX

はかる

計測・撮影

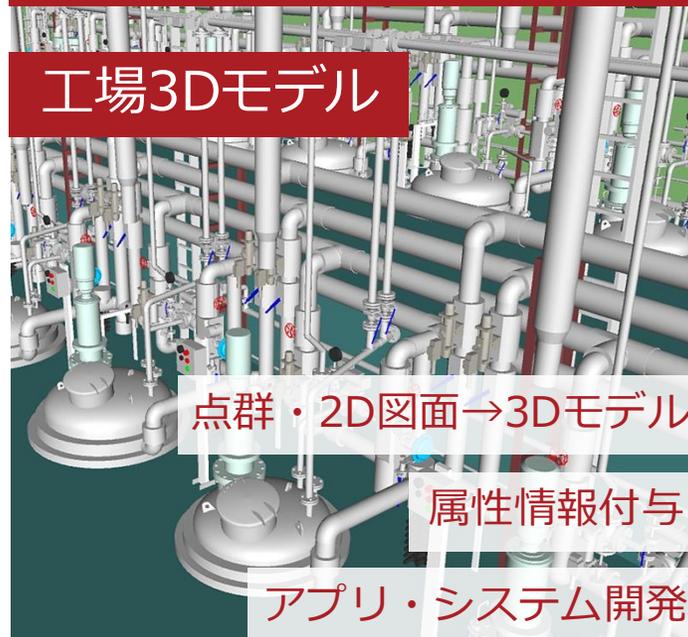
レーザー計測



つくる

加工

工場3Dモデル



みる

閲覧・活用



製造業DX・建設業DX 展示会出展情報



東京



2024年7月

メンテナンス・レジリエンス
TOKYO 2024

維持管理の効率化につながる
DXソリューションをご提案



名古屋



2024年10月

スマート工場EXPO
名古屋 2024

点群の利活用による工場再編・
生産性向上をご提案



ミュンヘン



2024年11月

BIM WORLD
MUNICH 2024

点群データの利活用
工場の計測、データ加工、見える化

コンサルティング新規受注

- 製造業であるKIMOTOの工場DXの**経験を活かした製造業DX**のサービスを、**日本及び海外へ展開**します。
- **製造業DXと働き方改革の相乗効果**で、DX推進に貢献してまいります。
- 3月期決算企業で最も早い株主総会5月開催を実現したKIMOTOのノウハウで、**決算早期化**を支援します。



- 1 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算について
- 2 2025年3月期 通期業績予想
- 3 フィルム事業
- 4 デジタルツイン事業
- 5 トピックス**



トピックス

KIMOTOファーム ライスセンター開設

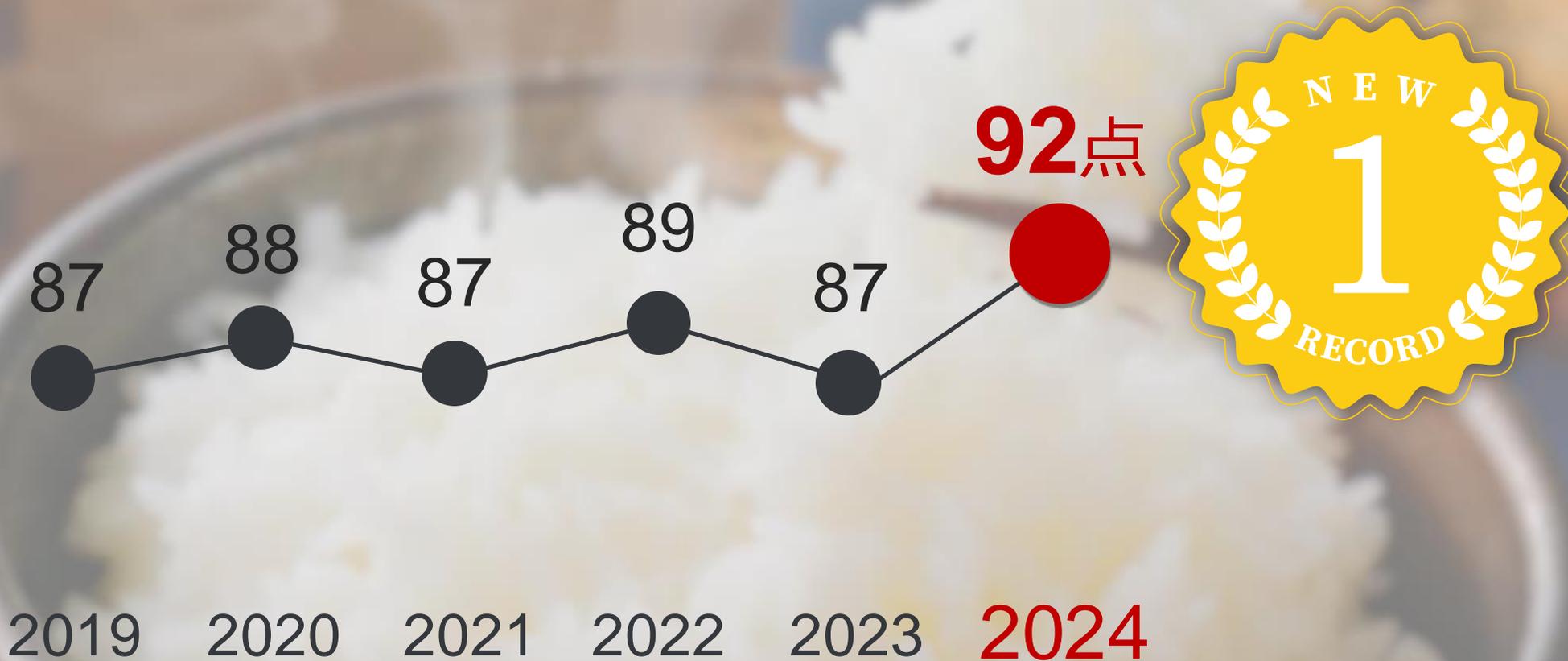


KIMOTO RICE CENTER



KIMOTO

KIMOTOファーム産 新米食味値 過去最高値を記録



日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編

3.5星認定



NIKKEI

Smart Work



2025

人材
活用力

S

ランク

人材
投資力

A+

ランク

テクノロジー
活用力

S

ランク

私たちの取り組み

決算早期化
株主総会5月開催

工場DX

リモート試作
開発分業

社内チャレンジの
機会

**人材活用
先進的な施策**

KIMOTOグループ
味の便り

社内セミナー

日報月報システム

改善テーマ
発表会

資本政策について

過去分析・現状把握

- ・ 経営指標分析（ROE, ROA, ROIC等）
- ・ B/Sマネジメント分析
- ・ 資本コストWACC算出



課題抽出

- ・ PBR 1倍割れ
- ・ 資本収益性が低い
- ・ 資本コストWACCとROEのと乖離

中期経営計画を元に方針を検討

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

投資

投資領域
現預金活用

財務

最適なB/S

株式

政策保有株
自己株
配当等

KIMOTO

人と未来を守る環境フレンドリーな企業へ

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績見通しを含む）は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいて当社が作成したものであります。
実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果となる可能性があります。